

2017年8月29日

イオン各社、各カンパニー 社長、支社長

環境・社会貢献責任者 経由 チアーズクラブ担当者 各位

イオン株式会社
グループ環境・社会貢献部
部長 金丸 治子

全国から選抜された優秀クラブのメンバーが集い交流する

イオン チアーズクラブ全国大会 2017 実施報告書

日頃より環境・社会貢献活動にご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。

標記の大会を実施、無事に終了し、このたび参加者・保護者からの感想も集約いたしましたのであわせてご報告申し上げます。

ご協力頂きました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

(記)

1. 目的

- ①各地区大会で選ばれた代表チームが集まり、「動物」をテーマとした2016年度の活動内容や成果を発表し合うことで、相互啓発の場とする。
- ②日々の生活で触れることができない自然環境の中で、その土地ならではの体験プログラムを通じて、チアーズメンバーの新たな気づき（日本の自然の多様性、自然のめぐみへの感謝など）、環境問題への関心を育む場とする。本年度のテーマ「ゴミ・リサイクル」に沿ったプログラムも組み込む。
- ③全国大会の開催を通じて、「チアーズクラブ活動の活性化」「チアーズメンバー及びコーディネーターのモチベーションの向上」に繋げる。

2. 大会概要

	沖縄大会	北海道大会
実施時期	7月25日(火)～7月28日(金) 3泊4日	8月2日(水)～8月5日(土) 3泊4日
開催場所	沖縄県国頭郡恩納村、うるま市周辺	北海道虻田郡ニセコ町、寿都町周辺
参加人数	チアーズクラブメンバー121名	チアーズクラブメンバー111名
参加地区	北海道、東北、北関東・新潟、南関東 の26店舗	東海・長野、近畿・北陸、中四国、九州、 の24店舗
プログラム	7月25日(火) ① 壁新聞プログラム①(壁新聞を読む) ビーチクリーン活動の事前レクチャー 7月26日(水) ② 美ら海シーカヤック体験 (うるま市 海中道路) ③ ビーグ(沖縄い草)と自然素材のクラフト作り(うるま市 与那城平安座)	8月2日(水) ① 壁新聞プログラム①(壁新聞を読む) 8月3日(木) ② くっちゃんウォークラリー (倶知安町) ※倶知安の市街地を歩きながら、地元の子ども達との交流を通じて、自分たちの町にはないもの、倶知安ならではのものを探す。

	④ 伊計島でビーチクリーン活動 回収したゴミの分別・調査活動 (うるま市 伊計島) ⑤ 壁新聞プログラム② (壁新聞からお互 い学び合う) 7月27日(木) ⑥ サトウキビの収穫と黒糖づくり体験 (恩納村) ⑦ 美ら海水族館見学(本部町) 7月28日(金) ⑧ まとめ、振り返りプログラム	③ 尻別川ラフティング(倶知安町) ※8人乗りのゴムボートに乗って川下り。 ④ 壁新聞プログラム②(壁新聞からお互 い学び合う) 8月4日(金) ⑤ ホテル周辺にて、北海道のリサイクル プログラム①「北海道の森林整備」 ⑥ 北海道のリサイクルプログラム②「も うひとつの森である海を守る」 (寿都町) 8月5日(土) ⑦ まとめ、振り返りプログラム
参加者	佐方社長(イオン琉球株) 三宅執行役(イオン株) 本田事務局長(イオン1%クラブ) 具志堅部長(イオン琉球株)	青柳本部長(イオン北海道株) 相馬部長(イオン北海道株)

3. まとめ及び参加者・保護者の感想

(1) まとめ

参加者が住む地域と異なる気候帯を持つ沖縄・北海道において、2017年度のチアーズクラブの活動テーマである「ゴミ・リサイクル」を軸とした環境問題について考え、行動変容に繋げていくことを目的としたプログラムを実施した。各プログラムに一連性があり、講師の方々のレクチャーもとても分かりやすく、子どもたちからも多数の質問や意見が出た。

沖縄、北海道両大会ともに、3日目の夜に大会を通じた振り返りの時間を設け、参加者はそれぞれの店舗メンバー、活動グループ内で気付きを共有した。

沖縄大会では「水筒とペットボトル、どちらを使う方が環境にとってより良いのか」というテーマで、2つのグループに分かれ、メンバー同士でディスカッションをし、「ゴミ・リサイクル」という視点を持ちながら自身の考えを構築、皆で意見を共有した。

一方、北海道大会では、まず「自分のためのリサイクルはダメなのか」ということをメンバー達に投げかけ、考えさせた上で「家に帰ってから直ぐにできそうな、自分が楽しくなる・嬉しくなるリサイクル活動」を各メンバーで考えた。

両大会とも最終日には、沖縄・北海道で得た学び・経験をもとに、それぞれの地元に戻ってから自分がとるアクションプランを考案し、それを皆の前で宣言させることで、その定着化を図った。

それぞれの大会において、参加者の視野が広がり、環境意識もより深まったと考える。

今年度より壁新聞プログラムは2日間に分けて実施し、1日目はじっくりと他クラブの新聞を読む時間、2日目は他クラブに質問を投げかける方式(記者会見方式)で実施した。

読み手の興味に応える壁新聞の書き方、あり方を学び、また質問に対する傾聴力・対応力を磨くことができ、参加者の今後の活動、壁新聞発表の相互啓発に繋がったものとする。

(2) 沖縄大会の参加者・保護者の感想

1. 海にゴミがあるという問題が、世界にもそして日本にもあるということは知っていたけど、伊計島のビーチにあんなにゴミが流れ着いていたことにビックリしました。でもみんなでビーチクリーン活動をして、翌日ウミガメが清掃したビーチに早速卵を産みに来たことを聞いて、嬉しかったです。また沖縄に行きたいと思います。
(旭川西店 メンバー)
2. 全国大会に参加して、沖縄の漂着ゴミの量がとても多いことに気付きました。私もゴミの量を少しでも減らすように自分で出来ること、「海岸にゴミを捨てない」「ゴミはゴミ箱に捨てる」「ゴミの分別をきちんとする」を早速実践したいです。またいらなくなったものを「リサイクルする」「直して利用する」「他の人に使ってもらう」などの取り組みもしていきたいです。サトウキビの搾りかす(バガス)から、ペットボトルができるということに驚きました。
(多賀城店 メンバー)
3. ビーチクリーン活動で見た漂着ゴミで、リサイクルできるものもたくさんあったのにしていなかったものがとても多かったのも、私たちは少しでもゴミが少なくなるようにリサイクルをこれからたくさんしていこうと思いました。美ら海シーカヤック体験や、ビーチクリーン活動等、沖縄でしか見られない景色や植物をたくさん見ることができてよかったです。この自然を守っていききたいと思います。
(太田店 メンバー)
4. 沖縄のビーチでもゴミがたくさん流れ着いて、海が汚くなっていることを知ったり、鳥の雛がプラスチック片を誤って食べて死んでしまうこともあることを知って、悲しくなりました。だから一生懸命、ビーチクリーン活動でたくさんのゴミを拾いました。これからは繰り返し使えるものをできるだけ利用する等、自分に出来ることはしっかりとやって、自然を大切にしていきたいです。
(日の出店 メンバー)
5. 学校や家庭では体験できないことをたくさんさせていただき、日々の活動から全国大会までのすべてに対して、イオン チアーズクラブに感謝しています。他校であったり、異学年であったり、イオンのコーディネーターさんだったり、たくさんの人と出会い、一緒に活動できることで子ども達はたくさん刺激を受け、コミュニケーション能力を育てられ、また新しい世界を見つけさせていただいています。
(苫小牧店 保護者)
6. 全国大会を通じて様々な経験をしながら、その中でビーチクリーン活動をして「社会に奉仕する」という気持ちを学べたのではないかと思います。また全国大会から帰ってきて「積極性」が身に着いた気がしています。秋田とは違った海の色、自然を体験し、日本の地理・歴史にも興味が出てきた様子です。親が経験させてあげられないことをたくさんさせていただきました。今の彼女にしか、感じられないものもあったかもしれません。本当にありがとうございました。
(土崎港店 保護者)
7. 会うことが貴重な他店舗のチアーズメンバーと数日生活をする中で、活動や会話の中からも学ぶことがあったようです。特にプログラムの活動は、感動と発見の多い貴重な体験ができ、関わってくださった皆様からいろいろ声をかけていただいたようで充実していたとのことでした。不安なことはなく、全力で楽しむことができました。全て忘れないように、記録を残して「まとめノート」を作成中です。自ら進んでノートを作ろうと始めたのは初めてのことです。環境保全について意識が高まってきました。
(新発田店 保護者)
8. 今回の全国大会は、娘にとって大変貴重な体験となり、本人もとても喜んでおりまし

た。自分で考えて行動したり、またグループで協力して物事を進める大切さを学ぶ事ができる良い機会となりました。私たち家族は東日本大震災後、岩手県陸前高田市から千葉県に来ました。そのため、イオン チアーズクラブの活動はもちろん、他にもイオンの皆さまが中心となってやっていたらいる被災地に対しての植樹活動やボランティア活動等に感謝しております。本当にありがとうございます。

(柏店 保護者)

(3) 北海道大会の参加者・保護者の感想

1. 初めて北海道へ行き、北海道の大自然の中にいる心地よさだったり、倶知安の町のユニークなところ（2階にドアがある家があったり、雪だるまが壁にくっついている家があったり等）がとても面白かったです。また今年のチアーズの活動テーマである「ゴミ・リサイクル」についても自分の考えを深めることができました。これからは「リサイクルをする」のではなく、「気付いたら自分のやっていたことはリサイクルだった」と思えるような生活をしていきたいと思います。(東浦店 メンバー)
2. 初めて全国大会に来て、自分のためにリサイクルをすると言う人もいれば、地球のためにリサイクルをすると言う人もいて、皆リサイクルを大切に、真剣にそれぞれで考えていることが分かりました。またいろいろな方法で、それぞれがリサイクルをしていることも店舗メンバーとの話し合いで分かりました。特にコーディネーターさんの着なくなった服を使って、草履を作るというのがすごいと思いました。私の家でもお風呂で使ったお湯をそのまま捨てないで、洗濯をする時の水として使う「水のリサイクル」をしています。(野々市南店 メンバー)
3. 今回の全国大会で一番驚いたのは、木にはひとつも無駄がないということです。幹は燃料にできるし、枝や葉は工作に使い、木を燃やした熱で料理も作れることが分かりました。一から十まで使えるので素晴らしいと思います。また枝を使って、自分のオリジナルスプーンを作りました。思い出になるものを作れたので、スプーンを使う度に今回学んだことを思い出します。大会を通して、リサイクルの大切さを改めて確認する事ができました。これからの生活では「自分がしていて楽しくなるリサイクル」を取り入れて、色々な人に広めていきたいと思います。(広島祇園店 メンバー)
4. 北海道の森林整備のプログラムでは、木の一本一本の大切さ、それをリサイクルすることの大切さが分かりました。また自分のスプーンを作ることもできて良かったです。私はこれから緑を増やすために、できるだけ庭に花や植物を植えたいと思います。あと生ゴミ等は堆肥化して、畑などに使っていきたいです。自分の身近な生活で何かリサイクルができることはないか、もう一度じっくり考えてみたいと思いました。(佐賀大和店 メンバー)
5. 寿都漁港でのプログラムでは漁船に乗船したり、また尻別川でラフティングを体験させていただいたり、普段の生活ではできない経験をたくさんさせていただいて、息子にとってとても貴重な4日間だったと思います。五感を目一杯使った体験を通して、リサイクルの大切さをしっかりと感じ取ることができたようです。(浜松志都呂店 保護者)
6. レクリエーションと学習がよいバランスで組まれていたので、飽きたり途中で挫折することなく、全て前向きに吸収できたようです。ゴミを減らす工夫や、実践している方の話を詳しく話してくれ、嬉しくなりました。その場のおいや、触ってみた感触

まで話していて、五感の全てで体験してきたのがよく分かりました。初めての友達とも楽しく過ごせたようで、良かったです。このような機会をいただき、本当にありがとうございました。（日根野店 保護者）

7. 寿都漁港での海のリサイクルについてのプログラム（漁船乗船体験、ホタテの殻剥き、漁港で行っているリサイクルについての学習）はまさにここでしかできないプログラムだったので、非常に良い経験になったと思います。3泊も子どもだけで外泊させた事がなく心配でしたが、いろいろな友達と交流して、一回り成長して帰ってきたように思います。イオンが目指す環境への取り組みは、子どもだけでなく親の私達も理解して、取り組みに参加していこうと思いました。（倉敷店 保護者）
8. チアーズクラブに参加させていただき、自然や環境については勉強させていただいておりますが、今回の全国大会での経験により更に、「もっと未来のためにリサイクルをしないといけないと思った」と帰ってきて本人が話してくれました。北海道で自然に触れ、また様々な体験を通して、何か感じる事があったのだと思います。日頃よりチアーズクラブの活動では、地球のために身近な環境や社会への取り組みをさせていただき、大変感謝をしております。これからの本人の人生にとっても、とても良い経験になったと思っております。（若松店 保護者）

3. 活動の様子 (写真の番号は、1 ページ目に記載したプログラムの番号を表しています)

(1) 沖縄大会 7月25日～7月28日

①



壁新聞プログラム①では他クラブの壁新聞を読み、どんなことを質問したいか、また自分の新聞のPRポイントを考えました。

①



ビーチクリーン活動の事前レクチャーでは、海岸の漂着ゴミについて事前に学習し、またこの活動の目的についても考えました。

②



2人1組でシーカヤックを体験しました。2人で呼吸を合わせ、力を合わせて漕ぎました。

③



ビーグ（沖縄い草）と自然素材を使って、オリジナルのクラフト制作に挑戦しました。

④



伊計島のビーチでイオン琉球のチアーズメンバー達と一緒にクリーン活動をして、海岸の漂着ゴミをたくさん拾いました。

④



回収したゴミはペットボトルや発泡スチロール、レジ袋等に分別、またラベルを見てどこの国から流れてきたものか調査もしました。

⑤



壁新聞プログラム②ではメンバーが記者になり、他クラブの新聞を読んで感じた疑問をインタビュー形式で質問し合いました。

⑥



地元の農家の方々のご協力のもと、サトウキビ刈りを体験しました。

⑥



サトウキビを使った様々なリサイクル（搾りかすからペーパータオルを作る等）の学習をした後、黒糖作りも体験しました。

⑦



美ら海水族館の大水槽「黒潮の海」の前で。巨大なジンベエザメの迫力ある群泳を間近で見ることが出来ました。

⑧



今回の沖縄での活動・体験を振り返り、これからの自分の行動目標をそれぞれ考え、紙に書き出し、メンバー同士で共有しました。

⑧



参加者全員の集合写真。

(2) 北海道大会 8月2日～8月5日

①



壁新聞プログラム①では他クラブの壁新聞を読んで、自分が聞いてみたいと思った質問を付箋に書いて、その新聞の上に貼りました。

②



店単位で豪雪地帯・倶知安の市街地を探検し、冬を乗り切るための工夫でどんなものがあるか街の人に聞いたりして、調べました。

②



北海道産とうもろこしなどの昼食を食べながら、倶知安の町の人たちと交流を深めました。

③



尻別川でのラフティング。メンバー達は迫力満点の川下りを大いに楽しみました。

③



全身びしょ濡れになったものの、グループのメンバーで力を合わせてゴールしました。

④



壁新聞プログラム②ではメンバーが記者になり、他クラブの新聞を読んで感じた疑問をインタビュー形式で質問し合いました。

⑤



ホテルの裏にある森で木の伐採を見学し、伐採した木を運び出すお手伝いをしました。

⑤



森の木の枝を使って、オリジナルスプーンをひとりずつ制作し、森で出来るリサイクルを体験しました。

⑥



寿都漁港ではホタテの殻むきにチャレンジし、むいた殻は乾燥させた後、粉碎して肥料としてリサイクルされていることも学びました。

⑥



漁港で出る魚のあら等を使って、海の磯焼け対策に使う堆肥を作っている工場を見学し、堆肥を触ったり、匂いを嗅いだりしました。

⑦



今回の北海道での活動・体験を振り返り、これからの自分の行動目標をそれぞれ考え、紙に書き出し、メンバー同士で共有しました。

⑦



参加者全員の集合写真。